

令和3年3月1日

エンジニアリング協会 関係者の皆様へ

一般財団法人 エンジニアリング協会

専務理事

前野陽一

新型コロナウイルスの新規感染者数は、一時期に比べるとかなり減ってきているように見えますが、1月初旬に出された緊急事態宣言は、依然として解除されていません。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

先月のレターでも申し上げましたが、当協会事務局も、日本政府のご指導に従い、できる限りリモートワークで業務を進めております。私自身も、週に2～3日程度の出社に抑えております。ペーパーワークは、自宅で行った方が効率的な場合もあり、このレターも自宅を書いております。他方、人と会って話をする、という場合、Web会議ではうまくいかないこともあります。業務の内容によって、リモートワークがうまくいく場合といかない場合がある、とつくづく感じております。

ところで、先月のレターで、事務局メンバーが賛成してくれれば、私の作成した動画を配信する予定である、と申し上げましたが、2月にアップすることができました (<https://www.ena.or.jp/about/managing-letter>)。まず、「リモートワークに伴う新型コロナウイルス感染以外の健康リスク」について、アップしてみました。このテーマは時宜を得ていると思うのですが、事務局職員の一部から、「こうした話だけでは、硬すぎてつまらない」といった厳しいご批判(?)もあり、次回以降、例えば「ジョークから見た外国人への偏見」や「英国国王が徳川家康に送った贈り物」といった話もしてみようかと思っております。是非一度ご覧いただき、ご感想を頂戴できれば幸いです。

以下、2月の主な活動についてご報告申し上げます。

## [主要な活動内容]

### 1 講演会等の実施

2月には、特別講演会、ビジネス講演会及び事業説明会を、それぞれ1件開催いたしました。

3月は、4件のビジネス講演会と1件の説明会を、全てZoomライブ配信で行う予定です。皆様の参加をお待ちしております。

### 2 2021年度 第1回エンジニアリング功労者等選考委員会開催

2020年度のエンジニアリング功労者等を決定したばかりですが、2021年度のエンジニアリング功労者等を選考するための委員会を、2月3日(水)に開催いたしました。

委員会では、選考要領の一部改正などをご承認いただき、当協会のWEBに候補の推薦をお願いする掲示を行いました。締め切りは、3月22日(月)となっております。多くのご推薦をお待ちしております。

(<https://www.ena.or.jp/event/periodical/commendation/page?id=46609>)

### 3 経済産業省 資源エネルギー庁 飯田祐二 次長へのご訪問

2月5日(金)に、資源エネルギー庁の飯田祐二次長をご訪問しました。「2050年カーボンニュートラル」というエネルギー政策の大転換があった中で、資源エネルギー庁としてどのような政策をとっていくのか、当協会でご講演をいただくようお願いし、快くお引き受けいただきました。

### 4 企画会議の開催

2月10日(水)に2020年度第4回企画会議を開催いたしました。今回の会議では、来年度の活動の重点などを説明し、ご了解をいただきました。

### 5 独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO) 佐々木伸彦 理事長へのご訪問

2月15日(月)に、JETROの佐々木伸彦理事長をご訪問しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済の動向が不透明感を増す中で、世界各国に現地事務所を有するJETROの佐々木理事長に、当協会における講演をお願いし、快くお引き受けいただきました。

## 6 スコットランド国際開発庁 Stephen Baker 代表のご来訪

英国は、連合王国であるため、大使館のほかにスコットランドを代表する組織（Scottish Development International; スコットランド国際開発庁）があります。

2月15日（月）に、その代表である Stephen Baker 様ほかのスタッフの皆様が、当協会にご来訪いただきました。スコットランドは、北海油田でも有名ですが、洋上風力発電などの再生可能エネルギーでも多くの優れた企業が存在します。

こうしたスコットランドの魅力について、当協会でご講演いただくようお願いし、快くお引き受けいただきました。

## 7 エンジニアリングシンポジウム 2021 第1回実行委員会の開催

10月15日（金）に開催予定の「エンジニアリングシンポジウム 2021」の第1回実行委員会を、2月16日（火）に開催いたしました。

今後、実行委員会では、講師の選定に入ることとなります。皆様ご期待ください。

## 8 駐日英国大使館へのご訪問

2月22日（月）に、駐日英国大使館を訪問し、大阪総領事のサーラ・ウテン様と国際通商部（第三国協力担当）の田中玲子様にお会いしました。

英国のビジネス事情や有望な英国企業などに関するご講演を、当協会で行っていただくようお願いいたしました。

## 9 その他

1月29日（金）にインタビューを行った、JFEプロジェクトワン株式会社代表取締役社長の大森亮様へのインタビュー記事がまとまりましたので、このレターに添付いたします。

次回のインタビューは、3月24日（水）に、GPSS エンジニアリング株式会社 代表取締役のリチャーズ フィリップ様をお願いしています。

## 3月の講演会等の実施について

令和3年3月1日  
エンジニアリング協会  
専務理事 前野陽一

3月は、4件のビジネス講演会と1件の説明会を開催する予定です。  
全て、Zoom Web 配信で行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。  
なお、正式のご案内は別途お送りします。

### 1 デジタル社会におけるテクノロジーの信頼性について

(3月10日(水) 日本マイクロソフト株式会社

政策渉外・法務本部 デジタル政策部長 片山 建 様)

コロナ禍の中で、社会のIT化の流れが加速化していることは皆様ご承知のとおりです。

今回は、JETROでの勤務のご経験もある片山様を講師にお招きし、高度デジタル社会を実現するために必要なことについてお話を頂きます。片山様のご希望により、私がインタビューを行う形で進めます。

IT関連部門や企画部門の皆様のご参加をお待ちしております。

### 2 2021年度 JICA 民間連携事業説明会

(3月11日(木) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

民間連携事業部 審議役兼次長 海外投融资担当 工藤 勉 様)

毎年恒例になっているJICAの民間連携事業の説明会です。

最近のJICAの民間連携の取り組みや、コロナ禍での対応状況等についてもご説明いただきます。

海外営業部門や企画部門の皆様にも、お聞きいただければ幸いです。

### 3 最近の貿易政策について (仮題)

(3月12日(金) 経済産業省 貿易経済協力局 総務課長 柏原 恭子 様)

最近の貿易に関連する動きは、RCEPの署名などポジティブな動きがある一方、米中摩擦の激化など懸念材料も多くあります。

今回の講演では、貿易経済協力局の筆頭課長である柏原様から、最近の貿易をめぐる動きに関してお話を頂きます。

海外営業部門をはじめとする皆様のご参加をお待ちしております。

4 2050年カーボンニュートラルと再生可能エネルギー

(3月16日(火) 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部  
新エネルギー課長 清水 淳太郎 様)

日本政府が目指す「2050年カーボンニュートラル」を実現するためには、あらゆる方策を導入する必要があり、新エネルギーの導入は大きな柱の一つとなります。

今回の講演では、新エネルギー政策をご担当されている清水様から、最新の状況をご説明いただきます。

エネルギー部門の皆様には、是非お聞きいただきたいと思います。

5 国際エネルギー情勢と日本のグリーン成長戦略

(3月17日(水) 資源エネルギー庁 国際資源エネルギー戦略統括調整官  
木原 晋一 様)

講師の木原様は、資源エネルギーに関連する国際関係を担当する責任者であり、各種のエネルギー関連の国際会議や政策対話にご出席されるなど、各国のエネルギー状況に精通されておられます。

エネルギー部門の皆様を中心に、ご参加賜れば幸いです。

[第3回]



# JFE プロジェクトワン 株式会社

代表取締役社長 **大森 亮** 氏



「一心同体」で世界に羽ばたく

JFEプロジェクトワン株式会社は、1987年6月に、三井造船株式会社傘下の企業として設立しましたが、M&Aにより、2020年4月からJFEグループの一員となり、社名も「三井E&Sプラントエンジニアリング株式会社(MPE)」から「JFEプロジェクトワン株式会社」となりました。こうした大きな変化から約1年が経った現状と将来像をお聞かせいただくため、千葉県幕張の本社に大森亮代表取締役社長をお訪ねしました。

## 「JFEプロジェクトワン」に込められた思い

—日本に限らず、世界のいたるところでM&Aが盛んに行われており、日本のエンジニアリング産業においても、今後M&Aが盛んに行われていくと思います。そこで、本日は、こうした動きの先駆けとなった御社

からいろいろとお伺いしたいのですが、まず、何故社名を「JFEプロジェクトワン」とされたのか、お聞かせください。

**大森** 新社名については、JFEエンジニアリング株式会社から、我々が決めていい、というお話をいただいていたため、社員に公募をか

けました。いろいろなアイデアの中で、「One」という言葉を入れたい、という提案があり、これを採用することとしました。我が社は、従来から「One MPE」をスローガンにしておりましたし、「One」には「Everyone」といった「人」の意味もあります。さらには、「Number One」を目指す、

お客様の「唯一」の存在でありたい、ということも含んでいます。こうした様々な思いを「JFEプロジェクトワン」という名前に込めています。

## JFEグループに入った メリット

—今回御社の株式を100%保有することとなったJFEエンジニアリング株式会社は、元々製鉄系のエンジニアリング企業であり、石油化学関連のビジネスに知見と経験のある御社をグループ企業とすることにメリットがあることはよく分かるのですが、御社にとって、今回のM&Aにはどのようなメリットがあるのでしょうか。

**大森** 端的に結論を申し上げますと、今回のM&Aは当社に大きなメリットをもたらしています。JFEエンジニアリング株式会社の大下元社長以下の幹部の皆様とお会いした際、我々への大いなる期待をひし

ひしと感じ、責任を痛感するとともに、一層奮励努力する気概と勇気をいただきました。

実は、三井グループに属していた時代に、海外プロジェクトで大きな赤字を出してしまったことから、海外EPCのCには取り組まないという方針が打ち出され、ここ数年海外の大規模プロジェクトからは遠ざかっていました。

ところが、JFEグループに入ってから、「海外のプロジェクトには、当然チャレンジすべき」「リスクヘッジは行わなければならないが、プロジェクトの規模の上限を設けない」ということとなりました。まず、この二つは、当社にとって大きなメリットです。

—当然、従業員の皆様の士気も上がりますよね。

**大森** おっしゃるとおりです。M&Aの話が決まった際に、従業員はどんな気持ちになるのだろうか、と心配したのですが、全くの杞憂でした。シニアの社員の中には、

ノスタルジックな思いを持っている者もいるかもしれませんが、特に若手社員は、「自分のやりたい仕事ができるようになった」と極めて前向きにとらえています。

—そのほか、どのようなメリットが感じられますか。

**大森** JFEグループとのシナジー効果が期待できる部分として、JFEエンジニアリング株式会社の調達力があります。集中購買をすることによって、今までよりも調達価格を低く抑えられると考えています。また、これから海外プロジェクトに再挑戦したいと申し上げましたが、我々JPOとしては現在、海外に拠点を有しておりません。これからJFEグループの海外ネットワークを活用させていただき、再び世界に羽ばたいていきたいと思っております。我が社は、長年化学プラントに携わってきた実績があり、国内で1千件以上、海外でも500件以上のプラントを造ってきました。この知識と経験を大いに活用していきたいと思っています。

## 従業員に期待すること

—エンジニアリング企業の社長さんにお伺いすると、皆さん様に「我が社の最大の宝は従業員だ」とおっしゃいます。大森社長も、同じお考えだと思いますが、従業員の皆様に期待することはどのようなことでしょうか。

**大森** 当然、我が社の最大の宝は従業員です。我が社には、シニアの社員が約1割おりますが、皆さん経験豊富な方々です。こうした



トルクメニスタン向け硫酸プラント

方々には、中堅若手に対しコーチングをして、一人前に育ててほしいと思っています。もちろん、中堅若手には常に「早く一人前になれ」と申しております。また、まだまだ数は十分ではないのですが、女性の技術者、管理者が育ってきています。こうした人たちにも、それぞれの特性に合った活躍の場を提供したいと思っています。

## 今後JFEプロジェクトワンが 目指すもの

—大森社長には、JFEプロジェクトワン株式会社の現状と将来に向けた思いを大分お聞かせいただきましたが、このほか、おっしゃりたいことはないでしょうか。

**大森** まず、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、基本的に従業員は全て在宅勤務で業務を処理しろ、と言っています。我が社の業務の中には、現場で行う仕事もあり、全て在宅で行うことができないわけではないのですが、かなりの仕事在宅勤務でできています。さらに、オフィスで仕事を行っていた際には「当然」と思っていた業務が、実は「不要」なのではないか、と思えるものも見つかってきています。こうした「通常業務の棚卸」は、必要なことだと思っております。

一方で、中長期的には、受注額の変動が大きいEPCビジネスにのみ頼るのではなく、安定的な収益が見込めるメンテナンス事業に事業の力点を置くべきだと思っております、すでにこの部門の人員を強化しました。

## エンジニアリング業界に入った きっかけと経験

—ここで、大森社長ご自身のことを少しお伺いしたいと思います。まず、エンジニアリング業界に入ったきっかけは何だったのでしょうか。

**大森** 私は、岡山県倉敷市の出身で、近くに水島のコンビナートがありました。学生の頃からコンビナートを見て、「将来このように大きなものを造る仕事に就けたらいいな」と思っていました。その後、地元三井造船という会社があり、プラントビジネスをしていることが分かったため、入社することとしました。

—今まで、プロジェクトマネージャーとして行った仕事で、最も印象深かったものは何でしょうか。

**大森** いくつかのプロジェクトについて、プロジェクトマネージャーをさせていただきましたが、最も印象深いのは、三井化学さんと出光興産さんとの合併事業で、シンガポールに化学プラントを造った事業です。プロジェクト遂行の途中で、必要な機器を



積んだ船舶が三浦半島沖で衝突事故を起こし、沈没してしまいました。結局、ベンダーさんにもお願いして、再度機器を作り直すこととし、通常なら1年間くらい遅れるところを半年の遅延で納めました。

## 社長の使命とは

—社長の使命は何だと思われませんか。また、模範とする経営者はおられますか。



### 大森 亮 (おおもり りょう)

1961年	岡山県生まれ
1984年 3月	神戸大学工学部化学工学科卒業
1984年 4月	三井造船株式会社入社
2004年 4月	三井造船プラントエンジニアリング株式会社 プロジェクトグループ長
2017年10月	三井造船株式会社 理事 エンジニアリング事業本部 事業本部長補佐 プロジェクト部長
2018年 4月	株式会社三井E&Sエンジニアリング 執行役員 プラント事業部長 プラント事業部営業部長
2019年 4月	同社 執行役員 三井E&Sプラントエンジニアリング株式会社 代表取締役社長
2020年 3月	JFEプロジェクトワン株式会社 代表取締役社長

**大森** 先ほど、我が社の最大の宝は従業員であると申し上げましたが、社長である私の最も重要な使命の一つは、従業員をいかに思いやるか、いかに守るか、ということにあると思います。我が社の目的は、「従業員もお客様も両方も幸せになる」ことだと信じています。そのためには、社長が明確な方向性を示し、ふれないことが必要だと思っています。社長とは全てを背負う責任者であり、副社長とは全く役割が違います。

また、私が尊敬している経営者は、大学の先輩でもある『海賊とよばれた男』という小説で有名な出光興産の出光佐三さんです。日本政府に対してもバトルをしながら、しかも一人の従業員の首も切らない、という彼の姿勢が大好きです。

——座右の銘はありますか。

**大森** あえて申し上げれば、「一心同体」です。先程もお話した印象深いプロジェクトでは、お客様をリスペクトして相手を好きになれ、とメンバーを指導しました。その結果、お客様との一体感



が生まれ、一緒にトラブルを乗り越えることができました。

社内も「一心同体」、JFEグループとも「一心同体」、お客様とも「一心同体」を目指しています。

——本日は大変ありがとうございました。



### インタビュー後記

インタビュー当日は、折あしく緊急事態宣言さなかの1月29日(金)となってしまいましたが、大森社長は、快く予定どおりのスケジュールでお受けくださいました。私のインタビュー記事でうまく伝わっているかわかりませんが、大変熱情あふれる語り口でお話をいただき、今後のビジネスに向けた気概と、従業員への愛情が強く感じられました。

聞き手：当協会専務理事  
前野 陽一



サウジアラビア向けエチレンプラント

### 会員企業データ

社 名：JFEプロジェクトワン株式会社  
 事 業 内 容：各種プラントおよび機器の見積／計画／設計／調達／建設工事／メンテナンス／設備診断  
 設 立：1987年6月1日  
 所 在 地：千葉県千葉市美浜区中瀬2丁目6番地1  
 従 業 員 数：341名(2020年3月現在)  
 ホームページ：<http://jfe-project-one.co.jp/>

